

人間はなぜ争うのか

二〇二二年二月ロシアがウクライナに侵攻を開始、戦争が始まりました。戦争関連のニュースを見ていて「本当の悲劇は善と善が戦った時に起こる」という言葉を思い出しました。この戦争はまさに善と善が対立して戦い、ついには互いに殺し合うまでになってしまいました。私たちが人間は自分にとっての善いこと（正義）を立て、そのためにはどんなことでも、それこそ戦争をもしてしまう。親鸞聖人はその人間を「業縁存在」と呼びました。そのような業縁でしか生きることでできない悲しい人間（衆生）を、人間以上に悲しんでいるのが仏様だといま感じています。



眞英寺

副住職

三浦 雅彦

お盆のつどい法話

講題・お盆とは？餓鬼について

二〇二二年七月十日（土）

お盆のつどいは新盆ご法要です。を迎える皆様と一緒にこのたびは感染対策をおつとめして法話を聞かして、本堂の人数をくご法要です。私たちが阿弥陀の本願を聞かせていただく大事な縁として、浄土真宗で大切に勤められている法話のダイジェスト版を掲載いたします。

唐突な質問になりますが、お盆とは何でしょうか？日本では古くから当たり前にある仏事、皆さんはお盆だから今日ここに集まっていますね。どうして「お盆」というのでしょうか？今日は仏事であるお盆にまつわるお話をいたします。

お盆の由来となったお話

今から約二五〇〇年前のインドにお釈迦様（仏陀）がおられました。お釈迦様にはたくさんのお弟子さんがいましたが、その中でも特にすぐれたお弟子のうちの一人「目連（モツガラナ）」とい

うお弟子が今回のお盆のお話に登場します。この目連という方、どのような方だったかという「神通第一」と呼ばれる神通力が使えたと言われています。神通力というのは人智を超えた特殊な能力のことです。魔法のような不思議な能力だとお考え下さい。目連の修行の成果として、お弟子の中で神通力が最も使えたので「神通第一」と呼ばれていました。そんな目連はある日、亡くなった自分のお母さんが今いったいどこで何をしているのかが気になったわけです。皆さん

のなかにも亡くなったご家族が今どこで何を
しているのか、気になる方がいらつしやるか
もしれませんね。目連は得意の神通力を使っ
てお母さんを探してみると、大変なことに
なっていました。餓鬼道の世界に堕ちて餓鬼
になつていたのです。餓鬼とはどのような姿
かというところ、ガリガリに痩せ
細つて骨と皮だけになつて、お
腹に水が溜まつて膨らんでいる
姿をしています。ちよつと怖い
ですね。そして餓鬼の世界がど
のような世界かというところ、いつも食べ物がない、
だからいつでも飢えと渴きで
苦しんでいる世界です。たまたま僅かな食
物や飲み物を手にすることができたとして
も、口に入れようとした瞬間に炎で燃え尽
きてしまふ、非常に苦しい世界なのです。目
連はお母さんが餓鬼の世界で他の餓鬼たちと一
緒に苦しんでいたことを知ってしまったので
す。



餓鬼のイメージ

困つた目連は、どうにかしてお母さんを助
けてあげたいとお釈迦様に相談しました。お
釈迦様はそれに対して「目連よ。いくら神通

力が使えたとしてもあなたの力ではお母様を
どうすることもできません」それに対して目
連は「お釈迦様、そこを何とか母を助け出す
方法ないものでしょうか？」と泣きつくので
す。するとお釈迦様は「今度七月に修行者の
集まりがあるから、そこに集まる修行者たち
に食べ物や飲み物などの施しを下さい。あ
なたの施しが巡り巡つて餓鬼であるお母さん
のところにも必ず届くから」と言いました。

それを聞いた目連は七月になつて集まつた
修行者たちに対して、できる限り施して、も
てなしました。するとたちまちに餓鬼であつ
たお母さんは救われていきました。お母さん
だけではなく他の餓鬼たちも一緒に救われ
いったと教えられています。そのとき救われ
ていく喜びからみんなが踊り出した、これが
「盆踊り」の由来だという説もあります。

お経に説かれる物語が伝えるもの

この物語は『仏説盂蘭盆経』というお経に
説かれています。お経にはこのような物語が
説かれることが少なくありません。皆さんの
お経に対するイメージはどのようなもので
しょうか？呪文のような漢字がズラズラ並ん

でいて自分には理解できない、それがお経に
対するイメージでしょうか。ところがこのよ
うにわかりやすく物語で書かれていることも
多いのです。

そしてこの『盂蘭盆経』の「盂蘭盆」とい
う言葉にも大事な意味があります。盂蘭盆
はインドの言葉の音写で「ウランバーナ」
という言葉が元のインドの言葉になります。
ウランバーナは倒懸（逆さぶり・ひっくり
返っている）という意味になります。今のお
話に逆さぶりやひっくり返っていることは出
てきませんね。では何がひっくり返ってい
るのでしょうか。それは真実から見ると、ひっく
り返つた姿をしているということです。真実と
いうのは仏様の眼。仏様の眼から見ると、真逆
の考え方をしている。これを倒懸や、ひっく
り返っているという言葉で示すのです。

では今のお話では何がひっくり返ってい
たのでしょうか？今のお話ではお母さんがひっく
り返っていたということです。自分の欲を満
たすことしか考えていなかったということ
です。満たせば満たすほど欲しくなるのが欲
ではないでしょうか。例えば欲しくてたまらな

かった新しいスマートフォンを手に入れたと
 しましょう。手に入れて日が浅いうちはうれ
 しいですよ。それが二〜三年経つとどうで
 しょう。周りとは比べたりして少し古くなつて
 きたなと思いませんか？自分が豊かになるた
 めに物が欲しくなる。それは欲を満たすと
 言います。満たせば満たすほど欲しくなるのが
 欲というのはそういうことです。豊かになる
 ために自分の周りをどれほど欲しいもので満
 たしても一向に満たされない。それはモノだ
 けではなく人間関係や地位なども形のないも
 のも含まれます。そういうもので周りをどれ
 ほど固めても一向に満たされない。不思議だ
 と思いませんか。このまま進んでいった先に
 満足という感覚はあるのでしょうか。矛盾し
 ていると思いませんか。これを「ひつくり
 返っている」と教えられています。私た
 ちの宗祖・親鸞聖人はこういう人間の姿を次
 のように言っています。

凡夫ぼんぷというは、無明煩惱むみょうぼんのうわれらが身に満み
 ちみちて、欲も多く、いかり、はらだ
 ち、そねみ、ねたむこととおおく、ひま
 なくして臨終りんじゆうの一念いちねんにいたるまで止とどまら

ず、消えず、絶えず 『一念多念文意』
 訳…「凡夫ぼんぷ」というのは、無明煩惱むみょうぼんのうが私
 の身に満ちみちて、欲も多く、いかり、
 腹立ち、そねみ、ねたむ心が多く、絶え
 間なくあつて、自分が亡くなるその瞬間
 まで（その心は）止とどまることも、消える
 ことも、絶えることがない。

またこのような嘆なげかわしい姿の凡夫ぼんぷについて
 親鸞聖人はこのように言います。

「凡夫ぼんぷ」は、すなわちわれらなり。本願ほんがん
 力を信樂しんぎやうするをむねとすべしとなり。

訳…「凡夫ぼんぷ」とはすなわり私たちのこと
 である。そのような凡夫ぼんぷは阿弥陀仏あみだぶつの本願ほん
 願がんのはたらきを信じることを人生の根本
 とするべきであるということである。

親鸞聖人は誰かを指して凡夫ぼんぷだとは決して言
 わず、自分こそが凡夫であると言います。そ
 してその凡夫こそが阿弥陀仏あみだぶつに最も救われな
 ければならない者であるということです。

目連のお母さんはいったい誰のこと？

次から次へと湧いてくる欲は、欲しいもの
 が手に入ると一瞬満たされたように感じま
 す。でもまたすぐにもっと欲しくなる。これ
 がひつくり返っているという姿です。先ほど

登場した餓鬼がきは食べ物たべものを口に入れようとした
 瞬間、食べ物から炎が燃え上がり無くなって
 しまうとありました。この炎の意味とは何で
 しょう。手に入った瞬間消えていく、欲が満
 たされた次の瞬間、満足は一瞬にして消えて
 行ってしまふということを表しているのでは
 ないでしょうか。新しいスマートフォンが手
 に入ったけれども、またすぐに新しいモデル
 が出たら欲しくなる。手にしたはずの新しい
 スマートフォンは燃えて消え失せてしまった
 わけです。この欲に終わりは来るのでしよ
 うか。はたしてこれは目連のお母さんだけの
 話でしょうか。（文責…真英寺）

※音写…ある言語の語音を他の言語の文字を
 用いて書き写すこと。外来語をカタ
 カナで表すことも音写。



真英寺法話チャンネル

このお話には後編がございます。続き
 をお聞きになりたい方は下記QRコード
 からどうぞ。



<https://youtu.be/zUC4b-Xe50k?t=13>

お盆のお話【後編】



お寺の掲示板

この心も身も全部

如来からの いただきもの

大峯頭 おのみね あきら

実はこの言葉のあとに、こう続いています。

この命は私の中で動いているけれども、私の所有物ではないんです。たまわった命です。誰のものでもないというのは、如来のものということ。ただの物質という意味ではなくて、人間の力ではない不思議なものからいただいた不思議な力です。

(『本願海流』本願寺出版)

この文章を読むと、私は自分の子育てについて言い当てられたような胸をつかれる思いがします。長男を授かったのが今から十三年前、そのあと二人の男の子が生まれて、三人の男の子の父親になりました。子育ては私の想像をはるかに超える大変さで周囲の助けを得ながら、何とか夫婦で子どもの世話と家事をやりくりしています。一日一日が慌ただしく終わっていく。子どもたちが寝静まったあとに残るのは、「今日自分は忙しくしていたけれども、一体何をしたのだろうか」という徒労感です。

中でも現在進行形で頭を悩ませているのが春から中学生になった長男です。中学校に入ると定期試験が始まります。試験の成績や生活態度など自分が常に評価されて、その評価が進路に

影響するようになります。そのように小学校から大きく環境が変わったことへのストレスで登校を嫌がったり、勉強をする意欲が湧かず夜中まで娯楽に走ったりしています。親としてはその生活を改めてほしいとあれこれ手を尽くすのですが、反抗期に入り始めた心には一向に届かず苛立ち葛藤する日々です。

なぜ私はこれほどまでに翻弄ほんろうされているのでしょうか。それは子どもを自分の思い通りにしようと考えているからだと思います。意識するとしないに関わらず自分の家族を思い通りにしようとする、その感覚がずっと続いてきて子どもは自分の一部、それこそ自分の所有物のような感覚を持ち、意のままにしたいという気持ちが常に根底にありました。だからこそ全く思い通りにならない子どもに戸惑い苛立ちを募らせるのでしょう。

戸惑いや苛立ち仲違いの原因は自分の側にあったのです。自分の子どもであっても、まず一人の人間として敬い尊重するという当たり前のことができていなかったのです。尊重すると言っても、現在の状況を放置するのではなく、漠然と感じている不安の一つ一つ一緒に向き合っていく。親とはこんなにも苦労が多いものなのかと改めて驚いています。それでもめげずに「いただきもの身と心を生きる者同士」親子で一緒に苦悩しながら生きていこうと思います。

裏門側塀セツトバック工事

完了のお知らせ

前号で告知した通り、新宿区からの要請で裏門側の塀の建替え、および道路拡張セツトバック工事を行いました。裏門の通りが広くなり、車の往来に支障のあった電柱も一緒にセツトバックさせることができましたので、お車での通行が格段に容易になりました。工事完了後、お墓参りやご近所の方々にもとても喜ばれております。

皆様からお預かりした大切な浄財は真英寺へお参りされる方々の安全・安心のために役立ててまいります。



上の写真は撤去前
万年塀と門扉



拡張された道および
新設されたフェンス

真英寺寺報「慈現」第五号

発行 真英寺（真宗大谷派 京都東本願寺）

東京都新宿区若葉二丁目一番三

TEL 03-3351-5955

E-mail m-miura@senei.jp

URL <https://www.senei.jp/>

